

「海外における高等教育に関する動向」（平成22年11月分）

日本学術振興会

【目次】

- 1. 米国 P 1
 - 1-1. 連邦政府や全国的な大学団体等に関するもの（ワシントン研究連絡センター）
 - ①大学認可システム
 - ②民間財団による教育プログラム開発支援
 - ③大学発ベンチャー
 - ④大学技術移転
 - 1-2. 主として州政府や個別の大学に関するもの（サンフランシスコ研究連絡センター）
 - ① 新聞報道等
- 2. ドイツ（ボン研究連絡センター） P 9
 - ① 連邦教育研究省（BMBF）の動向
 - ② ドイツ学術交流会（DAAD）の動向
 - ③ ドイツ研究協会（DFG）の動向
 - ④ ドイツ大学長会議（HRK）の動向
- 3. 英国（ロンドン研究連絡センター） P 12
 - ①ビジネス・イノベーション・技能省（BIS）の動向
 - ②英国高等教育財政会議（HEFCE: Higher Education Funding Council for England）の動向
 - ③英国大学協会（UUK: Universities UK）の動向
 - ④高等教育統計局（HESA: Higher Education Statistics Agency）
 - ⑤その他機関の動向（ラッセルグループ（Russell Group）の動向）
 - ⑥英国の新聞等報道（2010年10月16日～2010年11月15日）
- 4. フランス（ストラスブール研究連絡センター） P 29
 - ① フランス高等教育の動向
- 5. 中国（北京研究連絡センター） P 30
 - ①中国政府の高等教育政策の動向
 - ②中国の主要大学の動向（主として大学のHPから）
 - ③メディア（インターネット）による報道
 - ④メディア（新聞）による報道

1. 米国

1-1. 連邦政府や全国的な大学団体等に関するもの

① 大学認可システム

●大学アフォーダビリティ・生産性研究センター、大学の認可システムの見直しを要請

大学アフォーダビリティ・生産性研究センター（Center for College Affordability and Productivity: CAPP）は、10月20日に発表した報告書「The Inmates Running the Asylum? An Analysis of Higher Education Accreditation」において、米国の大学認可システムは機能していないとの評価を下し、認可システムの見直しを提案した。CAPPは調査から得られた結論として、「大学認可システムを完全に廃止するのは不可能であり、また廃止することは望ましくないが、学生が負担する学費や学位取得者率、統一試験による学生の成績といった具体的な数値に基づく大学認可制度を導入すべきである」との提案を行っている。

特にCAPPのディレクターで本報告書の著者の1人であるオハイオ大学(Ohio University)経済学部のリチャード・ヴェダー教授(Richard Vedder)は、長年に亘り地域別大学認可システムに対して批判的な立場を取ってきており、今回の報告書発表に際しても、「認可システムは必要ないのではないか」との意見を高等教育ニュース専門紙「Chronicle of Higher Education」に投稿している。

本報告書に対し、米国高等教育認可評議会（Council for Higher Education Accreditation: CHEA）のジュディス・イートン会長（Judith S Eaton）は、今後大学認可システムを強化するような改善を呼びかけていきたいとコメントしている。また、CAPPの報告書作成に当たり資金援助を行った民間財団の1つであるルミナ財団（Lumina Foundation）のプログラムディレクターのケビン・コーコラン氏（Kevin M. Corcoran）は、同財団は必ずしも本報告書の内容を支持するわけではないものの、認可システムに関する意見は多方面から取り入れるべきと述べている。

<関連情報>

・Center Renews Call for Overhaul of Nation's Accreditation System

<http://chronicle.com/article/article-content/125017/>

・Another Critique of Higher Ed Accreditation

<http://www.insidehighered.com/news/2010/10/21/qt#241392>

・The Inmates Running the Asylum? An Analysis of Higher Education Accreditation

<http://www.centerforcollegeaffordability.org/uploads/Accreditation.pdf>

② 民間財団による教育プログラム開発支援

● ゲイツ財団、教育プログラム開発に向けた補助金拠出を発表

マイクロソフト社(Microsoft)創業者を発起人とするゲイツ財団(Bill and Melinda Gates Foundation)は10月11日、大学中退の傾向が高い低所得者層に対する学位取得支援を目的としたオンラインコース技術の開発事業に対して、2年間で総額2,000万ドルを拠出する計画を発表した。今回の補助金拠出は、同財団が他の非営利団体と共同で今後数年に亘り実施する教育技術開発支援イニシアティブ「次世代学習プログラムチャレンジ (Next Generation Learning Challenges)」の第一弾となるものである。

学習意欲の向上には、教員の質が大きく関係しているという過去の調査結果を鑑み、学生の学習経験に合わせ、学生・教員間の連携を促進し、教員が日々学生の習熟度をチェックし、場合によっては素早く授業内容を変更できるようなオンラインコースを実現する新技術が開発されることが期待されている。

提案書は11月中旬まで受け付けられ、応募された提案書の中からゲイツ財団は25~30件の事業に対して初期投資を行い、その後それらの中から将来性のあるプロジェクトに対してさらに資金援助を行う予定である。

<関連情報>

・Gates Foundation's New Program

<http://www.insidehighered.com/news/2010/10/11/gates>

・In Higher Education, a Focus on Technology

<http://www.nytimes.com/2010/10/11/technology/11online.html>

③ 大学発ベンチャー

● 不況の中、596社が大学発技術を利用して起業

大学技術管理者協会 (Association of University Technology Managers : AUTM) が10月4日に発表したデータによると、2009年は不景気の最中であつたにも関わらず、大学で発明された技術を元に大学発ベンチャー596社が起業したとのことである。今回 AUTM が発表したデータの詳細は下記の通り。

- 大学発ベンチャー起業数 : 596 社
- 新商品開発数 : 658 件
- 2009 年度末時点で事業継続中のベンチャー企業 : 3,423 社
- ライセンス収入総額 : 23 億ドル

- 特許出願総数：1万8,214件
- 特許付与総数：3,417件

今回発表されたデータを受けて AUTM のアシュリー・スティーブンス会長 (Ashley J. Stevens) は、「大学で発明された技術の知的財産権を保護するバイ・ドール法が効力を示している証拠であり、地域経済の活性化にも貢献している」と述べている。なお、今回発表されたデータを含む報告書「2009年度米国ライセンス活動調査 (AUTM US Licensing Activity Survey: FY 2009)」は、2010年末に発表される予定である。

<関連情報>

・University Research Sponsored Startups Held Steady in 2009

<http://www.businessnewsdaily.com/university-research-small-business-startups-0586/>

・New Data Reveal University Startup Creation, Licensing Activity Strong Despite Economic Downturn

<http://newsblaze.com/story/2010100409350400006.wi/topstory.html>

④ 大学技術移転

●米国学術研究会議 (NRC)、大学技術移転に関する見直しを提案

10月4日、米国アカデミー (National Academies) の調査機関である米国学術研究会議 (National Research Council: NRC) より、産学有識者18人から構成される委員会の2年間に亘る調査結果をまとめた報告書「公共の利益となる大学の知的財産管理 (Managing University Intellectual Property in the Public Interest)」が発表された。同報告書では、1980年に成立したバイ・ドール法の成果に対する評価が行われており、大学技術の移転は研究大学の優先事項であるべきものの、技術の実用化を行ったとしても得られる利益は限定的であるため、営利目的での技術移転は行うべきではなく、むしろ社会全体の利益のために行われるべきであることなどが提言されている。

なお同報告書における主要提言は以下の通り。

- 大学技術の実用化の範囲を拡大し、さらなる技術開発の可能性を最大限に高め、社会的利益を生み出すことを目的として、特許やライセンス申請を行うべきである
- 大学技術移転局による実践策や戦略の策定を支援するような、大学教員、地域の民間代表および事業開発団体などをメンバーとする諮問委員会の他、特許関連の規定策定を行い特許所有権を巡る争いを仲裁する内部委員会を設立すべきである
- 大学教員や学生による大学発ベンチャー立ち上げを促進するため、より迅速なライセ

ンス申請プロセスおよび標準化された条件などを策定すべきである

- 大学技術管理者協会 (AUTM) の定める「大学技術ライセンスに関する 9 つの考慮点 (Nine Points to Consider in Licensing University Technology)」を採用すべきである
- 連邦政府の助成金によって発明された技術を追跡する連邦データベース「iEdison」を活用し、守秘義務を守ることを誓約した研究者に対し、当該データベースに含まれる情報を広く開放するべきである

<関連情報>

・University Ownership of Intellectual Property From Publicly Funded Research Is Effective, But Improvements Needed

<http://www8.nationalacademies.org/onpinews/newsitem.aspx?RecordID=13001>

・Tweaking Technology Transfer

<http://www.insidehighered.com/news/2010/10/05/techtransfer>

・Report Urges Universities to Be More Realistic in Tech-Transfer Hopes and Deals

<http://chronicle.com/article/article-content/124806/>

1-2. 主として州政府や個別の大学に関するもの

①新聞報道等

- マイアミ大学法科大学院における卒業生への奨学金プログラム

Free to Good Homes: U. of Miami Law Grads

(The Chronicle of higher education, October 12, 2010)

<http://chronicle.com/article/article-content/124899/>

- プリンストン大学基金が 14.7% の運用益を公表

Princeton Endowment Posts a 14.7% Return

(The New York Times, October 15, 2010)

<http://www.nytimes.com/2010/10/16/business/16princeton.html?partner=rss&emc=rss>

- 海外留学経験を就職に活かすためのタルサ大学における取り組み

Study Abroad's New Focus Is Job Skills

—Colleges strive to translate students' experience for employer—

(The Chronicle of higher education, October 17, 2010)

<http://chronicle.com/article/article-content/124979/>

- カリフォルニア州知事が、コミュニティカレッジからカリフォルニア州立大学への転入

保証に関する法案を承認

Golden State's Transfer Guarantee

(SFGate Education, October 20, 2010)

<http://www.insidehighered.com/news/2010/10/20/california>

●2009年の大学生の平均負債額が\$24,000に膨らむ

Average College Debt Rose to \$24,000 in 2009

(The New York Times, October 21, 2010)

<http://www.nytimes.com/2010/10/22/education/22debt.html?partner=rss&emc=rss>

●プリンストン大学がフェイスブックを通じて入学希望学生らと対話

Admission Dean Rapelye has 'Conversation With...' students on Facebook

(News at Princeton, October 21, 2010)

<http://www.princeton.edu/main/news/archive/S28/76/75C16/index.xml?section=topstories,featured>

●カリフォルニア大学デービス校が10億ドルの寄付金調達キャンペーン開始

UC Davis launches \$1 billion fundraising campaign

(UC Newsroom RSS, October 22, 2010)

<http://www.universityofcalifornia.edu/news/article/24362>

●アメリカの大学関係者の日本の教育システムへの理解を促すフルブライト・プログラム

U.S. Administrators Get a Close Look at Japan's Education System

(The Chronicle of higher education, October 24, 2010)

<http://chronicle.com/article/article-content/125050/>

●学生の支出を抑えるためにE-Textbooksの取り入れを検討する大学

To Save Students Money, Colleges May Force a Switch to E-Textbooks

(The Chronicle of higher education, October 24, 2010)

<http://chronicle.com/article/article-content/125044/>

●米国で利益追求大学が規制強化に反対

For-Profit Colleges Oppose Tighter Regulation in U.S.

(The New York Times, October 24, 2010)

<http://www.nytimes.com/2010/10/25/us/25iht-educSide25.html?partner=rss&emc=rss>

- 学生が寄付に対する周囲からのプレッシャーを感じる

Students Feel Peer Pressure to Donate

(The New York Times, October 27, 2010)

<http://www.nytimes.com/2010/10/28/business/28gift.html?partner=rss&emc=rss>

- 大学授業料が上がるとともに、学資援助額も上がる

As College Fees Climb, Aid Does Too

(The New York Times, October 28, 2010)

<http://www.nytimes.com/2010/10/28/education/28college.html?partner=rss&emc=rss>

- カリフォルニア州立大学で授業料増額が求められている

More tuition hikes sought for state universities

(SFGate Education, October 30, 2010)

http://articles.sfgate.com/2010-10-30/news/24545504_1_midyear-tuition-tuition-hikes-tuition-increases

- 未来の大学—授業は対面かオンラインか、混合か—

Tomorrow's College

—The classroom of the future features face-to-face, online, and hybrid learning. And the future is here.—

(The Chronicle of higher education, October 31, 2010)

<http://chronicle.com/article/article-content/125120/>

- カリフォルニア大学でオンラインコース試行プロジェクトのために教員たちから知恵を求める

Faculty online course ideas sought

(UC Berkeley News, November 2, 2010)

<http://www.universityofcalifornia.edu/news/article/24418>

- 学生の学習改善に係る取組み情報の共有等を目的とした” Presidents' Alliance” が発足

'Collective Action' on Assessing Learning

(SFGate Education, November 5, 2010)

<http://www.insidehighered.com/news/2010/11/05/assessment>

- 大学運営への互いの理解を深める等の目的で理事と財務担当の幹部職合同の会議が開催される

Provosts and Financial Officers Meet in Search of Common Ground

(The Chronicle of higher education, November 7, 2010)

<http://chronicle.com/article/article-content/125299/>

- カリフォルニア大学総長がUC財政を強化する提案を公表

President offers proposals to strengthen UC finances

(UC Newsroom RSS, November 8, 2010)

<http://www.universityofcalifornia.edu/news/article/24459>

- アリゾナ州立大学が女性のSTEM分野（science, technology, engineering and mathematics fields）修了を支援するウェブサイトを作成

Wising Up on STEM Completion

(Inside Higher Education, November 8, 2010)

<http://www.insidehighered.com/news/2010/11/08/stem>

- イェール大学が地域の若者に奨学金を授与するプログラムを約束

New Haven Promise program to provide scholarships for city youth

(Yale University Office of Public Affairs, November 9, 2010)

<http://dailybulletin.yale.edu/article.aspx?id=7989>

- バージニア大学における次の世代の教授獲得法

Next Generation Profs

(Inside Higher Education, November 9, 2010)

<http://www.insidehighered.com/news/2010/11/09/virginia>

- 寄付者が減少する中での大学の課題

As Donors Retrench, Challenges for Universities

(The New York Times, November 10, 2010)

<http://www.nytimes.com/2010/11/11/giving/11UNIV.html?partner=rss&emc=rss>

- 学部生にカリフォルニア大学バークレー校などでの研究経験を提供するプログラム

\$1 million grant to steer undergraduates into research

(UC Berkeley News, November 10, 2010)

http://www.berkeley.edu/news/media/releases/2010/11/10_Amgen_grant.shtml

- 中国がインドを抜いて留学生出身国のトップに急浮上

China Surges Past India as Top Home of Foreign Students

(The New York Times, November 15, 2010)

<http://www.nytimes.com/2010/11/15/us/15international.html?partner=rss&emc=rss>

●私立大学長の報酬が上昇

Private-College Chiefs See Rise in Pay

(The New York Times, November 15, 2010)

<http://www.nytimes.com/2010/11/15/us/15college.html?partner=rss&emc=rss>

2. ドイツ

① 連邦教育研究省（BMBF）の動向

● 国際化を望むドイツの大学 (30 Sep 2010)

ドイツの大学と専門大学はより強く国際的に結びつき、外国の大学生や研究者にとって魅力的でありたいと考えている。「監査」が今後そのために役立つであろう、つまり今後、国内外の著名な専門家が大学を訪問してインタビューを行い、目標設定と現在行われている政策を分析し、国際化戦略の更なる発展に対して具体的に助言をするといった支援が行われる。

連邦教育研究省（BMBF）は、2013 年末までこのプロジェクトに対し 260 万ユーロを支援する。このプロジェクト実施期間中に大学の経費負担を徐々に増やしていき、2013 年からは大学ごとに独自に「監査」を運営することになる。これにより大学内にその後も継続する監査体制が確立することになる。

2009 年の試験期間中にはこの「監査」に 6 大学が参加し、2010 年 9 月 1 日に始まった第 2 段階のプロジェクト期間において、さらに 45 大学が選ばれた。

BMBF HP (<http://www.bmbf.de/press/2955.php>)

● 「ドイツ奨学金」の新しいウェブサイト開設 (18 Oct 2010)

ドイツ連邦教育研究省 (BMBF) は新しいウェブサイト www.deutschland-stipendium.de において、新設の奨学金である「ドイツ奨学金」(Deutschlandstipendium) についての情報を提供している。それと同時に、企業、同窓会、市民団体を対象に、奨学金への寄付を募集するキャンペーンを始めた。

2011 年度の夏学期からドイツ全土で 10,000 人の大学生を対象に月額 300 ユーロの奨学金が支給されることになるが、これは民間のスポンサーと連邦政府の共同で出資される。この奨学金は、ドイツにあるすべての公立、もしくは国に認可された大学において、学生の収入状況に関係なく特に優秀な学生に対して支給される。

BMBF HP (<http://www.bmbf.de/press/2968.php>)

② ドイツ学術交流会（DAAD）の動向

● DAAD、ボーデ事務総長に別れ (29 Sep 2010)

20 年間ドイツ学術交流会（DAAD）の事務総長を務めたクリスティアン・ボーデ博士が 9 月末をもって退任した。10 月 1 日から後任として、前ベルリン自由大学国際センター長

のドロテア・リューランド博士が就任した。

新事務総長のドロテア・リューランド博士（55歳）は、フライブルク大学でドイツ語・ドイツ文学、歴史学、音楽学を専攻し、1984年に博士号を取得した。タイで5年間ドイツ語講師として勤務した後にDAADに入り、本部の様々な部署の長を務め、一時期はジャカルタ事務所長を務めた。2004年からベルリン自由大学へ異動する前の2008年までは、事務総長代理を務めた。

DAAD HP

(<http://www.daad.de/portrait/presse/pressemitteilungen/2010/14933.de.html>)

●教育に関する国際意見交換 (8 Oct 2010)

「国際的な研究の世界における博士号取得後のキャリア」をテーマに、シリーズ第7回「ID-E ベルリン (International Dialogue on Education)」が2010年10月11日、ベルリンのルートヴィヒ・エアハルト・ハウスで開催された。オーストラリア、イギリス、カナダ、アメリカからの専門家が、それぞれの所属機関やそれぞれの高等教育システムの枠組みの中での博士号取得後の職業への定着や支援策についての様々なモデルについて説明し、これに関して2人のドイツ人専門家と、大学や研究施設、大学の卒業生センターからの会議出席者と議論した。

ID-E ベルリンは、ドイツのブリティッシュカウンシル、オーストラリアのグループ オヴ エイト (Go8)、ドイツのフルブライト委員会、ベルリンのカナダ大使館、そしてDAADによる共同のイニシアチブである。

DAAD HP

(<http://www.daad.de/portrait/presse/pressemitteilungen/2010/15138.de.html>)

③ ドイツ研究協会 (DFG) の動向

●神経科学における新たな日独共同研究 (11 Oct 2010)

DFG HP

(http://www.dfg.de/en/service/press/press_releases/2010/pressemitteilung_nr_52/index.html)

④ ドイツ大学長会議 (HRK) の動向

●HRK 会長：大学において大切なことは研究者の業績であって、人種や宗教ではない
HRK President: "It's the performance that counts at universities, not origin or creed" (19 October 10)

HRK HP (http://www.hrk.de/eng/presse/95_2566.php)

- 記録的な大学修了者の増加が大学の効率性を裏付け

Record increase in the number of final examinations confirms the universities' efficiency (19 October 10)

HRK HP (http://www.hrk.de/eng/presse/95_2567.php)

- 大学と専門大学は「教育と学習のためのアカデミー」への出資を望む

Universities and Universities of Applied Sciences want to fund an "Academy for Teaching and Learning" (19 October 10)

HRK HP (http://www.hrk.de/eng/presse/95_2568.php)

- 監査という手段を用いた学習の質の改善。ドイツ、オーストリア、スイスの大学への提言

Developing the quality of studying by means of audits. Recommendation for Germany, Austria and Switzerland (19 October 10)

HRK HP (http://www.hrk.de/eng/presse/95_2569.php)

- 第3回全国的学籍交換の結果：大学の課程プログラムが再度大きな注目を集める
- Results of the third Study Place Exchange: The university programmes once again attract great interest (2 November 10)

HRK HP (http://www.hrk.de/eng/presse/95_2576.php)

- (ドイツ-ヨルダン大学が初の学士を輩出したことを受け) ドイツの大学の中東進出は成功

Germany's universities successfully engaged in the Middle East (17 November 10)

HRK HP (http://www.hrk.de/eng/presse/95_2578.php)

3. 英国

① ビジネス・イノベーション・技能省 (BIS) の動向

10月20日、財務省が公表した Spending Review 2010 について、BIS からプレスリリースが行われた。予想される収益を考慮しても 2014-15 年までに Capital Spending は 44% の削減の見込みとなっており、BIS の管理部門の予算を 40%削減するとしている。BIS は、節約額の 65%を高等教育・継続機関の財源、25%を効率的な運用、残り 10%を重要度の低い活動から当てることとしている。

【BIS の関係 URL】

<http://nds.coi.gov.uk/content/Detail.aspx?ReleaseID=416110&NewsAreaID=2>

※HM Treasury の動向

10月20日、SPENDING REVIEW 2010 (包括的歳出見直し 2010) が財務省から公表された。今回の発表では、BIS の予算は 25%削減となっている。

研究にかかる財源を除き、高等教育予算は 2014-15 年までの 4 年間で £71 億から £42 億へと 40%削減される見込み。なお、科学、技術、工学、数学の科目の指導する財源については引き続き支援を行うとした。

財務省から公表された内容は以下の通り。

【BIS について】

- ・ BIS の総節約額の 25%のうち、40%を高等教育分野の財源から節約し、BIS の所管する他の分野から平均 16%の節約を行うが、科学や成人が技術を習得するための主要項目関連の予算は保護する。

【高等教育分野について】

- ・ 高等教育分野の主な変更として、経済的に恵まれない学生への特別の支援をしつつも、納税者から (大学を卒業することによって) 利益を得る個人が財政的な負担を負うようにする。
- ・ 経済成長に貢献するため、高等教育イノベーションファンドを産学連携の推進を図るための大学へのインセンティブとするファンドに改編する。
- ・ 議会の承認を前提としているが、大学は、2012-13 年の学事年度から teaching grant の減額分を政府の学生ローン支援分に充当することで、「卒業生の貢献 (graduate contribution)」を増加させることが可能となる。新しいシステムでは、卒業生は、支払いが可能になってから学費分を支払えば良いことになっており、「卒業生の貢献」制度は、斬新的で、収入が少ない卒業生を保護するシステムになっている。「卒業生の貢献」の制度に関する法案は、今冬に国会に提出予定。
- ・ 政府は、経済的に恵まれない学生を支援するため、2014-15 年までに最終的に年間 £150 百万までを支援する、新しい National Scholarship fund を設立予定。

● HEFCE の年次会合におけるデビット・ウィレッツ科学・担当大臣の講演について

10月21日、BISのデビット・ウィレッツ科学・大学担当大臣は、HEFCEの年次会合で10月12日に公表された高等教育財政等のあり方に関する報告書（SECURING A SUSTAINABLE FUTURE FOR HIGHER EDUCATION）（以下「報告書」という）等を踏まえた今後の展望について講演した。ウィレッツ大臣は、報告書に関してすべてを受け入れることはないとしながらも、多くの専門家が報告書の内容を評価しているとし、今後具体化に向けて着手するとしている。今後は、2012年の秋の実施を目指し、このクリスマス前までには、「卒業生の貢献（graduate contribution）」などに関する法案を国会で審議・可決予定。

報告書の‘肝’となっているのは、現在、HEFCE経由で各大学に配分されている教育研究の基盤的経費が、学生を通じて直接配分されることにある。2012-13年の学事年度から、教育研究の基盤的経費が削減され、「卒業生の貢献」スキームを通じた経費を配分されることになるため、BISは早急に学費に関する制度を策定する必要があるとしている。また、2011-12年の経費の詳細については、年末ごろにHEFCE宛に通知をする予定。

また、「卒業生の貢献」については、報告書にあるように返済開始の基準金額を、現行の£15,000から£21,000に引き上げ、収入の9%程度を徴収することを考えている。学費の制限や徴収方法については、最終的な決定には至っていない。現行の学費等にかかる制限額を改定する際には、機関が高いレートでの「卒業生の貢献」を設定する場合は機関に対して（アクセスの拡大や公平性などの）厳しい条件を付与することも可能であるとする。

教育の質を重視し、学費の値上げをする大学は、上昇する学費分に見合うだけの証拠-より良い教育、コンタクトタイム、サービスなど-を提示する必要がある。学生に様々な選択肢を提供するという観点から、2年間のコースや、職業に直結する学位に焦点をあてたコース開設を検討している。

【BISの関係URL】

<http://nds.coi.gov.uk/content/Detail.aspx?ReleaseID=416135&NewsAreaID=2>

● UCAS の統計結果について

10月21日、デビット・ウィレッツ科学・大学担当大臣は、UCASの出した統計結果についてコメントを発表した。ウィレッツ大臣は、想定以上に高等教育への要望が大きく、定員分10,000を追加支援したとした。また、大学入学への競争は常に厳しいものであるが、成功するキャリアへの道は他にもあり、政府は定員50,000分の職業訓練のための追加措置を行っている旨をコメントした。

【BISの関係URL】

<http://nds.coi.gov.uk/content/Detail.aspx?ReleaseID=416134&NewsAreaID=2>

● 高等教育と学生への財政支援を改革する新しい計画の策定について

11月3日、BISは、高等教育と学生への財政支援を改革する新しい計画の策定を発表した。主な内容は以下のとおり。

- ・ graduate contributionの基準値を£6,000に設定する。高等教育への参加や公正なア

クセスなどに関する厳しい条件を満たした場合は、例外的に上限を£9,000 までを認める。大学・カレッジは学生に対して、異なったコースの異なったレベルごとの負担額を決定することができる。

- ・ 大学・カレッジは、£6,000 以下を設定することも可。大学・カレッジは、Office for Fair Access (OFFA) が示す高等教育への参加や公平なアクセスに関する条件を満たさなければならない。OFFA は大学がアクセスに関する合意を守らないときは、大学が£6,000 以上の学費を課せなくすることを含めた、制裁を行うことができる。
- ・ £1,500 万の National Scholarship Programme は、低所得者層出身の学生をターゲット にしており、入学年の学費無料を保証している。
- ・ 政府は有資格者の学生に学費を貸与する。パートタイムの学生（フルタイムの学生の 1 / 3 の就学が条件）も有資格である。
- ・ 世帯収入が£25,000 までの学生は、£3,250 までの奨学金を得る資格を有する。世帯収入が£42,000 までの学生は£3,250 の一部を得ることができる。
- ・ 奨学金は、世帯収入にかかわらず利用可能
- ・ より詳しいローンの額（自宅生、自宅外生、ロンドン就学）および通常より長く就学する場合にも支給額は、まもなく提示される。
- ・ 卒業後の返済は、年収£21,000 になってから、収入の年間 9%程度で 30 年以内。
- ・ システムを財政的に安定させるために、実質利子率をローン返済に付加するが、利子は、支払った金額に応じて減少する。£21,000 以下の収入ではローン返済に実質利子率は適用されない。£21,000~£41,000 では、実質利子率の付加が開始される（最大 RPI+3% まで）。£41,000 では、支払い開始時に RPI+3%が付加される。新しい返済システムでは、卒業生の中で生涯所得額が低い 25%は、現行システムより支払う額は少なくなる。
- ・ 政府は、返済システムの革新的な手法について保障する。卒業後に高収入を得た者が、早期返済によってこのシステムから外れた不当な支払いをしないことが重要。政府は、早期返済に関する可能性を検討している。早期返済をしようとしている適度の収入のある卒業生が不利にならないように検討する。

【BIS の関係 URL】

<http://nds.coi.gov.uk/content/Detail.aspx?ReleaseID=416343&NewsAreaID=2>

② イングランド高等教育財政会議 (HEFCE: Higher Education Funding Council for England) の動向

- 政府が発表した「高等教育と学生への財政支援を改革する新しい計画の策定」について
11月3日、HEFCE は、政府が発表した「高等教育と学生への財政支援を改革する新しい計画の策定」についてコメントを出した。コメントでは、HEFCE は、新しい体制へ移行するために行われる、法的整備、新しい財政支援、デュアルサポートシステムへの継続的な有効性の確保、透明性のある規制の策定など、について政府、BIS、大学・カレッジ、他のパ

ートナーと喜んで協働するとしている。

【BIS の関係 URL】

<http://www.hefce.ac.uk/news/hefce/2010/funding.htm>

●パイロット（試行的な調査）が切り開く、英国の新しい研究評価の枠組みにおける主要要素の重要性について

11月11日、HEFCEは、HEFCE研究評価の枠組みに関する報告書（Research Excellence Framework impact pilot exercise: Finding of the expert panels）を公表した。この報告書は研究の有益な効果を評価するため、画期的な提案を行った専門家の所見を打ち出している。

今回の試行的な調査では、①臨床医学、②物理学、③地球システム・環境科学、④社会事業・社会政策、⑤英語・英文学、の5分野で行われた。29の英国機関が参加している。試行的調査では、上記研究分野における研究成果を評価することが可能だとわかった。主な所見は以下のとおり。

1. 試行的調査に参加している高等教育機関は研究成果の様々な証拠を提出した。集められたユニークな証拠は、研究成果から得る社会・経済的利益を明らかにしている。
2. 研究論文に対する専門家の調査は、効果を評価するのに適切な手段である。（ピアレビューを行う）専門家は研究論文の差別化や評価をすることができたほか、この分析結果はREFにも適用が可能だとしている。
3. ケーススタディのアプローチは、REFへの応用を進展させるべきものであり、委員会は評価が完全に実施されるためのプロセスについて、いくつかの改良点を提言した。
4. 試行的調査では、全く異なるインパクトを持つ5つの分野で実施されたが、実現可能性と効果の評価方法における幅広い所見は類似している。
5. 効果に対するしっかりとした評価は、関係者の十分な参加によってREFに重みをつけて行われるべきである。試行的調査によって、効果をどのように評価するかについて多くを学んだが、最初に実施するREFはまだ発展途上にあり、学界の確実性ととも実施されることが重要である。

【HEFCE の関係 URL】

<http://www.hefce.ac.uk/news/hefce/2010/refpilot.htm>

③ 英国大学協会（UUK: Universities UK）の動向

●SPENDING REVIEW2010について

10月20日、UUKのステイブン・スミス会長は、Spending Reviewに関する高等教育予算の削減に対し、英国経済・社会にとっては良いニュースだとは信じられないとし、UUKは大学の指導と研究にかかる予算削減について反対するとした。予算削減が現在と未来の学生に与える悪影響から守ること、失われた財源に代わる財源を確保すること、の2

点の重要性についても述べている。

また、高等教育分野は他省が所管している教員養成や地域振興についても関与していると述べている。

【UUK の関係 URL】

<http://www.universitiesuk.ac.uk/Newsroom/Media-Releases/Pages/UniversitiesUKRespondstoGovernmentSpendingReviewannouncement.aspx>

- UUK が公表したパートタイム学生に関する報告書について（大学の財政に関する提案を受けてパートタイム学生が増加する見込み）

10月26日、UUKは英国におけるパートタイム学生の供給について報告書（The supply of part-time higher education in the UK）を公表した。

主な内容は以下のとおり

- ・ 現行では財政的に不利な機関がパートタイムコースを開設し、追加的なコストやパートタイムコースを実施することに伴うリスクに対し、十分にカバーできていない。
- ・ ブラウン卿の報告書を受けて、全日制学生の学費は増加する見込み、大学は学費上昇への圧力の下で、現在入学時に学費を支払っているパートタイム学生にも（財政的な）負担増加を課す見込み。
- ・ 現在のパートタイム学生の10%が学費等にかかる政府の財政的支援を受けている。ブラウン卿の提案が導入されれば、政府の支援を受けられる学生は大幅に増える見込み。
- ・ 雇用者が学費を支払っているのは1／3のみ。雇用者は、学費を支給する雇用者の選択に厳しい。
- ・ パートタイムコースの需要の落ち込みは、財政的な制限、現在の経済危機、政府の政策変更などに関連している。
- ・ 英国では、2007-08年に就学している人の39%がパートタイム学生。一般的にパートタイム学生は年齢が高く、女性や職業的な資格保持者もしくはAレベル以下の基本的な教育資格を持っている人が多い。

【UUK の関係 URL】

<http://www.universitiesuk.ac.uk/Newsroom/Media-Releases/Pages/Part-timestudycouldgrowfollowinguniversityfundingproposals%E2%80%93UUKreport.aspx>

- 高等教育財政に関する政府の発表について

11月3日、UUKは高等教育財政に関する政府の発表についてコメントを発表した。UUKのステイブン・スミス会長は、政府の示すパッケージが、Spending Reviewで高等教育に関する£29億ポンドの削減となった大学に対して最も有益な財政システムになることを信じているとした。UUKは政府の高等教育予算削減には反対の立場であることを明確にしているが、このパッケージは、経済状況に関わらず学生が大学に行くことを可能にし、大学に財政的な安定をもたらす、学部生の教育においても国際的な競争力を維持し続けるための財源を必要とするとも述べた、また、英国経済成長と繁栄は、大学への財政支援と関連して

おり、科学研究予算を確保したこととともに、(政府が) 大学が中心的な役割を果たす認識をもっているものとしている。

【UUK の関係 URL】

<http://www.universitiesuk.ac.uk/Newsroom/Media-Releases/Pages/UniversitiesUKresponsestogovernmentstatementonhighereducationfunding.aspx>

●移民政策に関する内務委員会の報告書について

11月3日、UUKは、内務委員会 (Home Affairs Select Committee) の移民政策に関する報告書についてコメントを発表した。UUKは、移民抑制へのキャップが経済の妨げになる趣旨の報告書を歓迎し、世界トップクラスの教授たち (移民政策によって) の渡英が阻害されれば、英国の大学が優れた科学者の採用できず、また、英国企業や公的サービスが高い能力を持つ個人の採用できないなどの損害が生じるなどとコメントした。

【UUK の関係 URL】

<http://www.universitiesuk.ac.uk/Newsroom/Media-Releases/Pages/UniversitiesUKresponsestoHomeAffairsCommitteereportonimmigrationcap.aspx>

●HEFCE が公表した研究成果の有益な効果の評価に関する報告書について

11月11日、UUKは、HEFCEが公表した報告書 (Research Excellence Framework impact pilot exercise: Findings of the panels) についてコメントを発表した。コメントでは、2014年に実施される新しい研究評価の枠組みの効果は、資金配分に使用される新しい研究評価の要素になるとし、この報告書の提案の下、大学は研究が社会や経済により利益をもたらすことを明示する必要がある、などと述べた。

【UUK の関係 URL】

<http://www.universitiesuk.ac.uk/Newsroom/Media-Releases/Pages/Responsestofundingcouncilsreportonassessingthepositiveimpactofresearch.aspx>

●英国の大学と発展途上国との協働について

11月12日、英国の大学が発展途上国と協力において果たしている重要な役割が増加していることについて実例をまとめた報告書 (Universities and development: global cooperation) を公表した。近年、世界銀行や国連などと協力する高等教育の重要性が認識されており、この報告書では、以下の事例などが取り上げられている。

- ・ マラウィ ミレニアムプロジェクト (ストラスクライド大学)
- ・ ニューカッスル大学とバングラディッシュ糖尿病、内分泌・代謝異常に関する研究機関との連携
- ・ ミドルセックス大学美術学校とウガンダ、マケーレ大学マーガレットトロウエル美術・産業学校との連携
- ・ ブライトン・サセックス大学医学部、サセックス大学、ブライトン・サセックス大学病院財団とザンビア教育病院大学 (the University teaching Hospital) との連携

【UUK の関係 URL】

<http://www.universitiesuk.ac.uk/Newsroom/Media-Releases/Pages/UKuniversitiesworkingcloselywithdevelopingcountries.aspx>

④ 高等教育統計局 (HESA : Higher Education Statistics Agency) の動向

● 高等教育機関のベンチマークに関する報告書の公表について

11月4日、HESAは、HEFCEから委託を受けて実施した、高等教育機関のベンチマークに関する報告書「Benchmarking to improve efficiency-Status Report」を公表した。HESAは、高等教育分野横断に特に効率性の推進に特化したベンチマークに関して、加速度的に統合する活動を行っている。この調査では、最初の段階として、ベンチマーク作成のために他機関の実例などの情報や利用可能なデータソース、サービスなどを収集し、分野横断的なベンチマークの基準となるものを作成する。次の段階では、効率性を増加させるために、ベンチマークの可能性や機能を進化させることとしている。ベンチマークの定義について議論されているが、特にこのベンチマークは、純粋に比較する際の基準として利用されること、他機関の事例にならったり、成功事例を発見したりするプロセスであるとしている。

今後、HESAでは、他機関と協力しながらベンチマークの現代化や効率性等を検討する。

【HESA の関係 URL】

http://www.hesa.ac.uk/dox/Benchmarking_to_improve_efficiency_Nov2010.pdf

⑤ その他機関の動向 (ラッセルグループ (Russell Group) の動向)

● HEFCE の年次会合に関するウィレットツ大臣のスピーチについて

10月21日、ラッセルグループは、デビット・ウィレットツ科学・大学担当大臣が行ったHEFCE年次会合における講演についてコメントを発表した。

コメントでは、昨日発表された高等教育予算削減は、英国のワールドクラスの大学が経済再生の原動力となるためには、ブラウン報告書にあるような高い「卒業生の貢献 (graduate contribution)」に着手しなければならないこととした。イングランドにおける学費の上限撤廃は、「卒業生の貢献」の実質的な増加が資金を確保するための最も公平で実行可能な方法だといえるとした。また、ブラウン報告書のシステム下では、慣習的な‘負債’から無縁であり、いかなる生徒も学費を前払いをせず、卒業後に£21,000以上の収入を得るようになってから学費相当分を返済するシステムは重要であり、貧しい家庭出身者や低所得者を保護する仕組みをとっていることを評価した。また、ラッセルグループは、予算削減の影響を遅らせる方針というウィレットツ大臣の表明を歓迎し、もし削減がすぐにも行われれば、ブラウン改革で得られる新たな収入を得るまで、資金不足の危機に直面するだろうと述べている。

【ラッセルグループの関係 URL】

<http://www.russellgroup.ac.uk/russell-group-latest-news/121-2010/4556-willetts-speech-to-hefce-conference/>

●新しい学費の上限に関する提言について

11月3日、政府が提示した学費の上限額についてラッセルグループはコメントを発表した。2012年から適用される新しい学費の上限額£9,000は、世界レベルの大学であり続けることを可能にすると述べた。「卒業生の貢献 (graduate contribution)」は、高等教育分野にとって現金を獲得する生命線であり、Spending Review の予算削減を防ぐ手立てだとしている。

また、ラッセルグループは、あらゆるバックグラウンドを持つ優れた学生を惹きつけるように努力するとし、奨学金に多くの予算をつぎ込み、優れた学生が、能力に見合った大学へ入学できるように様々な施策を行っているなどとコメントした。

【ラッセルグループの関係 URL】

<http://www.russellgroup.ac.uk/russell-group-latest-news/121-2010/4563-new-tuition-fee-cap-proposals/>

⑤ 英国の新聞等報道 (2010年10月16日~2010年11月15日)

●The TIMES

18 October 2010

マンチェスター大学は修士課程 (3年間) 留学生に16万2千ポンドを請求
Foreign MSc students face £162,000 bill at Manchester University

19 October 2010

学位を取得した男性は生涯賃金が低いとの研究報告
Male graduates end up worse off says research

19 October 2010

授業料値上がり前に大学へ駆け込もうとする学生が「殺到」する恐れ
'Stampede' for university places feared as students rush to avoid rise in fees

19 October 2010

オズボーン財務相は科学に4年間の猶予を与えた
Osborne gives science flat-cash reprieve for four years

21 October 2010

医学研究は守られたが天体学は非常事態 (歳出見直しの発表を受けて)
Medical research safe, but the sky could fall in on astronomy

21 October 2010

最良のシナリオは科学重視の証（歳出見直しの発表を受けて Royal Society 会長のコメント）

Best-case science scenario proves a commitment

21 October 2010

今年度志願者の3人に1人が大学入学を逃した

Third of applicants miss out on a university place

22 October 2010

授業料に二段階のキャップが設定され年間最低6千ポンドになる見込み

Students face fees of at least £6,000 a year in two-tier cap

23 October 2010

頭脳流出：米国大学が学生の心をつかんでいる

Brain drain: US universities are winning hearts and minds

01 November 2010

大学の圧力に自由民主党が屈して授業料が3倍に

Tuition fees to triple as Lib Dems lose out to university pressure

01 November 2010

公費歳出削減は「偏って大学卒業生を痛めつける」

Public spending cuts 'will hurt graduates disproportionately'

03 November 2010

裕福な学生がトップ大学に入るには貧しい学生より良い成績を取らなければならない

Wealthy students will need to outperform poorer ones for university

04 November 2010 Scotland

教育予算のカットは「ただただ大きすぎる」学長らが警告

Education budget cut 'just too big', warn university principals

04 November 2010

主要大学は授業料の上限額を無視して9千ポンド以上に設定

Leading universities to ignore cap and raise tuition fees up to £9,000

10 November 2010

中流階級の学生への生活費貸付削減を大学担当大臣が認める

Minister admits cut in maintenance loan for middle class students

10 November 2010

暴徒化した授業料抗議者が保守党本部に侵入

Rioting fees protesters invade Tory HQ

10 November 2010

学生が大学の財務本部を占拠

Students occupy university finance HQ

11 November 2010

クレグ副首相：授業料の公約はしなければよかった

Clegg: I wish I had not made tuition fees pledge

13 November 2010

授業料の値上げで納税者の負担が大幅に減るわけではないと政府

Higher student fees will not produce big savings, Government warned

13 November 2010

ケンブリッジ大学（他4大学）は合意を破ってA*取得を入学志願者に要求

Cambridge among universities to break deal and require applicants to have A*

13 November 2010

A*を取得できなかった学生に扉を閉ざす大学

Universities close doors to students without A*

15 November 2010

授業料の値上がりで米国留学する学生が増加

Higher fees 'will make more study in the US'

●The Guardian

20 October 2010

大学は教育予算の40%を削減されることに脅えている

Universities alarmed by 40% cut to teaching budgets

<http://www.guardian.co.uk/education/2010/oct/20/spending-review-university-teach>

[ing-cuts](#)

21 October 2010

デビット・ウィレットツ科学・大学担当大臣はオックスブリッジが他の大学を援助することになるのを止めるため授業料キャップを支持する（大学が自由に授業料を定めるが年間£6,000以上の場合一部課税されるというブラウンレビューの提案に反対して）

David Willetts backs fees cap to stop Oxbridge subsidising the rest

<http://www.guardian.co.uk/education/2010/oct/21/university-fees-willetts-rejects-rising-levy>

22 October 2010

シンクタンク” Work Foundation” が破産と売却を宣言ーイギリス最大の雇用シンクタンクがランカスター大学によって獲得される

Work Foundation thinktank declared insolvent and sold

<http://www.guardian.co.uk/politics/2010/oct/22/work-foundation-thinktank-bought>

22 October 2010

ブラウンの計画は全ての分野の知識を低下させるものだ

Browne's plans will drive whole fields of knowledge into decline

<http://www.guardian.co.uk/education/2010/oct/22/brownes-plans-knowledge-in-decline>

25 October 2010

学生達は教育給付金の廃止で打撃を受けるだろう

Students hit by scrapping of education maintenance allowance

<http://www.guardian.co.uk/education/2010/oct/25/education-maintenance-allowance>

26 October 2010

私立大学設立のブームがやってくる

Boom time for private universities

<http://www.guardian.co.uk/education/2010/oct/26/higher-education-private-university-boom>

27 October 2010

オックスフォード大学が財政をめぐる政府と衝突しようとしている

Oxford University on collision course with government over funding

<http://www.guardian.co.uk/education/2010/oct/27/oxford-university-education-funding>

1 November 2010

大卒失業率が過去 17 年で最高に

Graduate unemployment at highest level for 17 years

<http://www.guardian.co.uk/business/2010/nov/01/graduate-unemployment-highest-for-17-years/>

3 November 2010

ウィレッツ大臣は大学授業料を£9,000 まで引き上げると発表した

Willetts announces student fees of up to £9,000

<http://www.guardian.co.uk/education/2010/nov/03/willetts-announces-fees-of-9000>

3 November 2010

エリート大学は現在の 3 倍まで授業料が柔軟になることを歓迎する

Elite universities welcome flexibility to triple students' fees

<http://www.guardian.co.uk/education/2010/nov/03/universities-welcome-flexibility-triple-fees>

7 November 2010

イギリスの学生は海外留学に消極的過ぎる、British Council の最高責任者が発言

UK students too reluctant to study abroad, says British Council boss

<http://www.guardian.co.uk/education/2010/nov/07/uk-students-reluctant-study-abroad>

9 November 2010

大学が（キャメロン政策の）「大きな社会」への道を導く

Universities lead the way to the 'big society'

<http://www.guardian.co.uk/education/2010/nov/09/students-advise-charities>

9 November 2010

中流階級の学生は政府の間違いが訂正され大学サポート（給付金）の削減に直面する

Middle-class students face cut in university support after government mistake

<http://www.guardian.co.uk/politics/2010/nov/09/middle-class-students-cut-university-support>

10 November 2010

学生の授業料値上げに対する抗議：「これは始まりにすぎない」

Student fees protest: 'This is just the beginning'

<http://www.guardian.co.uk/education/2010/nov/10/student-fees-protest-conservative-hq>

● The Independent

21 October 2010

知識の価格—ブラウン・レポートの衝撃はどうなっていくのか。

The price of knowledge: What will the impact of the Browne report be?

<http://www.independent.co.uk/news/education/higher/the-price-of-knowledge-what-will-the-impact-of-the-browne-report-be-2112127.html>

28 October 2010

フルタイムの学生は希少になるかもしれない。

'Full-time students will become a rare breed'

<http://www.independent.co.uk/news/education/higher/fulltime-students-will-become-a-rare-breed-2118417.html>

3 November 2010

年間£9,000を超える授業料に激しい怒りが高まっている。

Fury mounts over £9,000-a-year tuition fees

<http://www.independent.co.uk/news/uk/politics/students-face-9000ayear-tuition-fees-2123847.html>

4 November 2010

授業料が£9,000に値上げされることに伴い、暴動の恐れも。

Rebellion fears as tuition fees rise to £9,000

<http://www.independent.co.uk/news/education/education-news/rebellion-fears-as-tuition-fees-rise-to-1639000-2124588.html>

10 November 2010

学位取得にかかる経費が300%増加するという調査結果が発表された。

Research claims cost of taking degree up 300%

<http://www.independent.co.uk/news/education/education-news/research-claims-cost-of-taking-degree-up-300-2130010.html>

10 November 2010

学生のデモが保守党本部を襲い、避難を引き起こした。

Student protest sparks Tory HQ evacuation

<http://www.independent.co.uk/news/education/education-news/student-protest-spark-s-tory-hq-evacuation-2130011.html>

12 November 2010

労働党が卒業税を支持

Labour endorses graduate tax

By Andrew Grice, Political Editor

<http://www.independent.co.uk/news/education/education-news/labour-endorses-graduate-tax-2131896.html>

14 November 2010

大学の挑戦—新しい現実への対処

—授業料の上昇や高等教育予算の削減について何を知るべきなのか、また将来の学生たちに及ぼす影響とは何なのか。

University challenge - the new reality

What do you need to know about the fee rises and cuts to higher education funding, and what do they mean for tomorrow's students?

<http://www.independent.co.uk/news/education/education-news/university-challenge-ndash-the-new-reality-2133557.html>

14 November 2010

オックスフォード大学の学生が、授業料の値上げ案を支持。

Oxford students back plan to raise tuition fees

<http://www.independent.co.uk/news/education/education-news/oxford-students-back-plan-to-raise-tuition-fees-2133889.html>

15 November 2010

学生たちが国全体でのデモを撤回。

Students retreat from national demonstrations

<http://www.independent.co.uk/news/education/education-news/students-retreat-from-national-demonstrations-2134196.html>

15 November 2010

オックスフォード大学は英国のトップクラスのプライベートスクールに照準を合わせている。

Oxford targets Britain's top private schools

<http://www.independent.co.uk/news/education/education-news/oxford-targets-britain-top-private-schools-2134200.html>

● Times Higher Education

21 October 2010

市場、市場とはなんだ、学長は学費高騰への競争の準備をしている

Market, what market? V-Cs set for race to the top on fees

<http://www.timeshighereducation.co.uk/story.asp?sectioncode=26&storycode=413930>

21 October 2010

監督機関は、経営状態の悪い大学に対して動くべき

Regulator could act on failing universities

<http://www.timeshighereducation.co.uk/story.asp?sectioncode=26&storycode=413934>

21 October 2010

ブラウン卿の報告書を非難する声に焦点を当てろ、批評家は主張する

Focus on cuts undermines value of Browne's report, critics contend

<http://www.timeshighereducation.co.uk/story.asp?sectioncode=26&storycode=413935>

28 October 2010

Hefce 会長の発言：未知の領域への厳しい旅への準備

Hefce chief: prepare for tough journey in uncharted territory

<http://www.timeshighereducation.co.uk/story.asp?sectioncode=26&storycode=414018>

28 October 2010

完全な変化：予算削減は指導状況の転換を期待

Changed utterly: cuts expected to transform the teaching landscape

<http://www.timeshighereducation.co.uk/story.asp?sectioncode=26&storycode=414005>

28 October 2010

ブラウン卿の変革に期待する人たちのための、独立記念日

It's independence day for those who rise to the Browne challenge

<http://www.timeshighereducation.co.uk/story.asp?sectioncode=26&storycode=414012>

28 October 2010

これ以上使用する余裕はありませんか？

Can we afford not to spend more?

<http://www.timeshighereducation.co.uk/story.asp?sectioncode=26&storycode=414033>

4 November 2010

民間企業は、学生支援で収入を得ることに乗り気になっている

Private firms keen to take Queen's shilling for student support

<http://www.timeshighereducation.co.uk/story.asp?sectioncode=26&storycode=414101>

4 November 2010

パートタイム学生を支援するブラウン卿の計画は現実と合致していない、と学長は主張

Browne's plans to support part-timers do not mesh with reality, vice-chancellor claims

<http://www.timeshighereducation.co.uk/story.asp?sectioncode=26&storycode=414105>

4 November 2010

優秀な学生には価値があることを経済界に証明せよ

Show business that good graduates are well worth paying for

<http://www.timeshighereducation.co.uk/story.asp?sectioncode=26&storycode=414091>

4 November 2010

A レベルを取得する勉強はもう少し大変になる

Making the A level work a little harder

<http://www.timeshighereducation.co.uk/story.asp?sectioncode=26&storycode=414077>

11 November 2010

REF のインパクトは軽くなるが、(範囲は) より広くなる

REF impact will be lighter but also more widespread

<http://www.timeshighereducation.co.uk/story.asp?sectioncode=26&storycode=414178>

11 November 2010

やってみろ、ただし、利にくらんで裏切ってはならない

Take a punt, but don't get sold down foreign rivers

<http://www.timeshighereducation.co.uk/story.asp?sectioncode=26&storycode=414185>

11 November 2010

ロンドンの大学のハブは申し分なく、より大きな役割を担う準備

London's collegiate hub is in great shape and ready for a bigger role

<http://www.timeshighereducation.co.uk/story.asp?sectioncode=26&storycode=414166>

●BBC

18 October 2010

歳出計画のける`教育分の割り当ては、改革に直面している

Education allowances face 'reform' in spending plan

<http://www.bbc.co.uk/news/education-11566596>

20 October 2010

Spending Review : 教育における反応

Spending Review: Reaction on education

<http://www.bbc.co.uk/news/education-11582473>

2 November 2010

学生は、労働党の学費における反動を懸念

Students warn MPs of tuition fees 'backlash'

<http://www.bbc.co.uk/news/education-11675502>

3 November 2010

学生は£9,000 までの学費の値上げに直面

Students face tuition fees rising to £9,000

<http://www.bbc.co.uk/news/education-11677862>

3 November 2010

学位取得のための1年目は時間の無駄か？

Is the first year of a degree a waste of time?

<http://www.bbc.co.uk/news/magazine-11676192>

10 November 2010

留学生の学費は低額に押さえ続けるべき、と首相が発言

PM: Fees rise should keep foreign student charges lower

<http://www.bbc.co.uk/news/uk-politics-11724431>

10 November 2010

学費値上げに対する学生たちの行進

Students march against tuition fee rise

<http://www.bbc.co.uk/news/education-11726822>

12 November 2010

学生の抗議：ダウニングストリートは教授陣を非難

Student protests: Downing Street condemns lectures

<http://www.bbc.co.uk/news/uk-politics-11740282>

4. フランス

① フランス高等教育の動向

● 「2010年度 Times Higher Educationによる世界の大学ランキングについて」

2010年度 Times Higher Educationによる世界の大学ランキングにおいて、フランスの大学では、39位に Ecole polytechnique (エコール・ポリテクニーク)、42位に Ecole normale supérieure, Paris (パリ・エコール・ノルマル・シュペリエール)、100位に Ecole normale supérieure de Lyon (リヨン・エコール・ノルマル・シュペリエール)、140位に Université Pierre-et-Marie-Curie (パリ第六大学) がランクインされた。

ランキング入りしたフランスの大学は、極めて入学試験が難関なグランゼコールに偏っている。ドイツの14大学、オランダの10大学、スイスの6大学、スウェーデンの6大学等他のヨーロッパ諸国と比較し、フランスが少ない理由として、研究・教育への投資が不足していることが批判として挙げられている。

本ランキングは、教育・学習環境、研究、論文引用数、産学連携、教職員・学生の国際化の5つのカテゴリー(13の指標)により、評価されている。

参考資料

- ・ ル・モンド紙(2010年9月17日) ”L' université française mal notée”
- ・ Times Higher Education HP

<http://www.timeshighereducation.co.uk/world-university-rankings/>

● 「修士課程終了後の就職・進学調査」

フランス高等教育・研究担当省により、初めて2007年度修士課程修了者を対象として2009年12月～2010年7月にかけて、就職・進学調査が行われた。分野・大学毎に集計が行われ、フランス全体で平均して91.4%が修士課程終了後に就職又は博士課程に進学していることがわかった。

分野毎の集計では、法学・経済・経営では92.2%、文学・言語学・芸術では86.9%、歴史・地理・心理学・情報コミュニケーションでは90.1%、科学・技術・健康では92.3%となっている。

参考資料

- ・ フランス高等教育・研究省 HP

<http://www.enseignementsup-recherche.gouv.fr/pid24447/taux-d-insertion-professionnelle-des-etudiants.html>

5. 中国

①中国政府の高等教育政策の動向

●2010年中国国際教育年会フォーラム開催（2010.10.23）

中国国際教育交流協会が主催する「2010 中国国際教育年会フォーラム」および中国国際教育展が北京を皮切りに行われ、教育部 Hao 副部長が出席し、基調報告を行った。そこにおいて Hao 副部長は「交流と協力を強化し、教育国際化のプロセスを歩む」ということで、「国家中長期教育改革と発展企画綱要（2010—2020）」の紹介を行った。これからの教育目標、特に国際面での発展を詳しく説明した。

報告によると、現時点まで、世界で中国留学生の総数は168万人。中国は1950年に初めて最初の外国人留学生を募集し、現在では190の国・地域の24万人の留学生が中国に在ると言われる。教育部は今後、2020年までアジアで外国人留学生が一番多い国を建設する計画である。

http://www.moe.edu.cn/publicfiles/business/htmlfiles/moe/moe_1485/201010/110117.html

②中国の主要大学の動向（主として大学のHPから）

●中国国家旅行局と浙江大学が連携協定を締結（2010.10.20）

10月14日、中国国家旅行局と浙江大学は連携協定を締結し、全面的な協力を推し進めようとしている。近年、中国の旅行業は迅速に発展している。旅行業において優秀な人材を養成し、発展を促進させるために、学科建設や科学研究や教員の交流、育成や学生の実践といった全方位的な協力を行う予定である。

浙江大学は世界一流の旅行大国を建設するという目標に基づき、旅行業に関する理論と実践を研究の重点課題とし、中国国家旅行局に戦略コンサルティング、理論と知的サポートを提供する。また、人材育成面で、浙江大学は修士以上の高レベルの人材を育成し、中国国家旅行局が浙江大学に対して育成訓練の場を提供する。今後、双方は旅行産業にかかる協力協定を締結し、そのための研究グループを設立する計画もある。

<http://www.news.zju.edu.cn/news.php?id=31375>

●アモイ大学：修士学生向けの奨学金を増額（2010.10.21）

アモイ大学は2011年修士学生向け奨学金を増額する方向の方針である。それによると、2011年9月1日から、修士課程学生向けの奨学金を8,000～5万人民元へと増額させる。

本年、アモイ大学は修士課程学生の募集の宣伝を強化し、多様な形式で優秀な学生を集

めている。6月～9月まで、各学科の教授、院生などを集め、全国の重点的な大学で説明会を開催し、優秀な学生を募集する。しかも、インターネットなどの手段も利用し、学校の優勢、特色を宣伝している。

今まで、アモイ大学は他の大学から 520 人の推薦学生を募集し、それらの学生の質は高くなっている。

<http://www.xmu.edu.cn/news/AnnDetail.asp?aID=10072>

●北京大学：「973 プロジェクト」の 10 プロジェクトを取得（2010. 10. 24）

2010 年、科学技術部が承認した 113 の「973 プロジェクト」と 83 の科学研究計画のうち、北京大学は 10 の「973 プロジェクト」を取得し、中国における大学のトップの座を奪った。1998 年に設立された「973 プロジェクト」には、国家経済と社会発展の要求に向けて重要な基礎研究計画などが含まれている。2010 年、北京大学が承認された研究計画プロジェクトは、医学、情報、工学、生命学、科学などの分野にまたがっている。

http://pkunews.pku.edu.cn/xwzh/2010-10/24/content_185788.htm

●中国人民大学：フランスの 3 機関と共同で「中国人民大学中仏学院」設置の協定締結（2010. 10. 25）

10 月 22 日、第 1 回中仏高等教育フォーラムが行われ、その中において、中国人民大学の紀学長はフランス・パリソルボンヌ大学学長他 2 大学の学長と「中国人民大学中仏学院」設置の協定を締結した。当日はフランス駐華大使ほか中国、フランス関係者が調印式に出席した。この協議により、中国人民大学は国際学院の下に中仏学院を設置し、中国とフランスは提携して学院を共同運営する。

<http://news1.ruc.edu.cn/102392/71379.html>

●清華大学：日本東北大学デーが清華大学にて開催される（2010. 10. 27）

10 月 26 日、日本東北大学デーが清華大学で開催された。東北大学から約 30 名の教員が集まり、清華大学の教員・学生と深く広範な学術交流が行われた。開幕式に先立ち、清華大学顧学長が東北大学井上学長と会見し、両校の提携にかかる意見を交わした。

会談の後、顧学長が井上学長と共同で両校の学生交換に関する協議が締結された。

<http://news.tsinghua.edu.cn/new/news.php?id=24013&home=1>

●清華大学：東アジア研究型大学協会の年次総会が開催（2010. 10. 29）

10 月 28 日、東アジア研究型大学協会 (Association of East Asian Research Universities, AEARU) の第 16 回年次総会が清華大学で行われた。17 の大学からの学長、副学長が清華大

学に集まり、AEARU 大学の将来の科学研究の方向性および人材育成の向上などのテーマをめぐって交流を行い、相互の経験を共有し、検討を行った。

<http://news.tsinghua.edu.cn/new/readnews.php?id=24021>

③メディア（インターネット）による報道

●2011年に香港の12大学とマカオの5大学が江蘇省で新入生募集（2010.10.29）

10月27日、江蘇省教育庁によると、2011年に香港の12の大学とマカオの5の大学が江蘇省で新入生を募集する。受験生が各大学の要求に基づき、統一形式で応募し、ネットでも申請ができる。2011年4月9日に一部の香港とマカオの大学は説明会を行う。

教育部の認可を取得したのは、香港は、香港大学、香港中文大学、香港科技大学ほかである。一方、マカオは、マカオ大学ほかである。

<http://www.chsi.com.cn/jyzx/201010/20101029/137176795.html>

④メディア（新聞）による報道

●武漢大学のイノベーション人材育成計画、初回100人の名簿発表

China Education Daily/中国教育報（2010.10.02）

厳しい選考を経て、武漢大学基礎学科がイノベーション人材育成計画「弘毅学堂」の初回選抜学生100人の名簿が発表された。数学、物理、化学、生物、コンピュータの5専攻から各20名が選出された。この100名は600名以上の中から13時間に及ぶ耐久型「魔の選抜」を経て選抜されたもので、9割以上が90年代以降生まれの学生。半数以上は省クラスの報奨を受けている。5つの専攻のうち、専門外からの選出が最も多かったのは化学グループで、それぞれ7名が別の専門からである。第一回の学生は毎学期、または毎学年試験を受け、淘汰と補充を繰り返しながら最後は50人程度になる。

弘毅学堂は同校のエリート人材育成特区であり、各学生に平均10万元が要請のために使われる。内容は、①学科グループ別に首席教授とグループリーダーを立てる。②学科・専攻の変更や受講課程の免除の許可など弾力性のある学制を敷く。③国際的に著名な教授を招き、学生の海外一流大学での学習や交流を行う。などである。教育モデルを多様化し、広範な教員と学生のマンツーマン指導の個性的学習方法を展開するなど、学生は特殊な教育方法を享受することになる。

●清華－ボーイング共同研究センターが設立

China Education Daily/中国教育報（2010.10.21）

10月21日、清華大学－ボーイング共同研究センターの調印式が清華大学工程物理学科で行われた。清華大康克軍副学長とボーイング開発技術部門の代表が、提携書に調印した。今後、ボーイングと清華大学は旅客機内の環境、コンピュータ科学の航空業での応用、材料と工業設計の4つの研究領域で連携していく。

康副学長は、同校を代表して述べた祝辞の中で、「ボーイング社は世界のトップに立つ飛行機メーカーであり、優れた技術と応用力があり、中国に巨大な市場を持っている。一方清華大学は、安全科学と技術、材料科学など航空技術に関する分野に豊富な研究蓄積がある。双方が相互の優位性を生かし、力を合わせて大きな成果を挙げることを希望するとともに、清華大学創立100周年の記念すべき出来事になった」と述べた。一方、ボーイング社の代表も「清華大学の優秀な科学研究グループとのパートナーシップを喜ばしいと述べるとともに、「今回の提携で、市場のニーズを満たした、国際的にトップ水準の航空技術と製品を研究開発し、中国と世界の航空産業の進展に貢献したい」と述べた。

清華－ボーイング共同研究センターは清華大学の工程物理学科に置かれ、研究センター長は中国工程院院士・範維澄氏。工程物理学科、材料科学工程学科、航天航空学部、工業工程学科、ソフト学部、建築学部などが連携して展開する。